

開催報告

令和6年3月19日(火)10:00-11:30、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)、研究大学コンソーシアム(RUC)の3団体の主催により「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に関する懇話会(学術情報流通に関する連続セミナー(第3回))を開催しました。

統合イノベーション戦略推進会議で令和6年2月16日に決定された基本方針について、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局の赤池伸一参事官から、そのあらましと理念について説明していただきました。その後、関連実務に携わる主催3団体から、尾城友視氏(東京大学附属図書館職員 / JPCOAR 会員館職員)、田口宣行氏(埼玉医科大学附属図書館課長補佐 / JUSTICE 運営委員会委員)、久保琢也氏(信州大学アドミニストレーション本部/ RUC 加盟大学)を加え、茂出木理子氏(東京工業大学研究・産学連携本部特命専門員)をモデレータとして、同方針の内容やその円滑な実装等をテーマとしたディスカッションが行われました。

ディスカッションでは、率直な意見交換や建設的な議論が行われ、基本方針ならびに日本におけるオープンアクセスへの取り組みの現状を、深く理解できる貴重な機会となりました。オンラインでも80件を超える多数の質問やコメントが寄せられ、学術論文等の即時オープンアクセスの実現への関心の高さを感じさせました。

■参加者数 551 名 (対面 27 名、オンライン 524 名)

■アンケート結果 回答数：266

○職種

大学職員(図書系)：187 大学職員(研究推進系)：23 URA：10 大学教員・研究職：12
出版関係者：4 その他：30

○機関

国立大学：119 私立大学：90 公立大学：13 民間企業：12 その他：32

○セミナーは参考になりましたか

とてもよかった：146 よかった：89 あまりよくなかった：26 よくなかった：5

○ご意見・ご感想 ※公開の同意をいただいたものです。

【大学教員・研究職】

・ 文系学会で役員を務めていて、理事会内・学会内で検討するために、たいへん勉強に

なりました。

- ・ 工学部所属の教員です。JST ファンドでも CN 関連の ALCA や IT-AI 関連の CRONOS が即時 OA 除外であったり、NEDO などの経産省系ファンドの公募が入っていないことから、知財戦略との優先順位もあるのかな？と想像していますが、とは言っても即時 OA 化対象の科研費、CREST・さきがけなどでも時間軸基準での論文化（公開原則）と特許化（非公開性高い）のせめぎ合いは今でもあるわけで、論文と知財を共に考えるよう要請される研究者サイドからは、即時 OA 化でここらに関するガイドラインを再度示してもらおうと混乱が少なく済むと思います。
- ・ 現場との調整が不十分なまま理念的な政策論だけが具現化し皆が不幸になっているのでは？

【URA】

- ・ まだ検討事項は残っていると思いますが、明確な方針を示していただくことで、執行部の先生方にも相談しやすくなりますし、2025 年に向けて準備をすすめていきたいと思っております。
- ・ まだ策定途上とのことなので難しいかとは思いますが、具体的なガイドラインのようなものを示された方が良いように思われます。パネルでは上から言われたことを嫌々やるのではうまくいかないとのコメントがありましたが、国がオープンサイエンス、研究力強化に対する明確なビジョンを示し、それを実現する上での具体的な指針の元での予算面も含めた強力なリーダーシップの下での取り組みが必要かと思えました。でないと、皆さん迷われ、戸惑いの中での個々の取り組みに陥り、補正予算も有効活用できないように思われます。

【大学職員（研究推進系）】

- ・ 本日は大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 小規模大学であり、研究者も多くない中、時代の流れにどの程度くらいついていくべきかを、考えさせられ続けています。オープンアクセスについて、スケールが大きい話になると（執行部は特に）当事者意識から離れていってしまい、現場担当の意識の高低に委ねられている状態です。規模別に範囲を絞った内容を提供していただけたら、少しは動きやすいかもしれないと思いました。
- ・ 3 団体と政策担当者の率直な意見を聞くことができ現状がよくわかりました。モデレータの方も立場の違う方の意見をうまく取りまとめていただけて参考になりました。
- ・ 政府職員と大学のやり取りを公開の場で見せてもらえることはとても参考になります。
- ・ スケジュール的に考えますと、2025 年までに間に合うのか疑問が残ります。

- ・ 国の動向がよくわかった。
- ・ 研究推進部門として機関リポジトリの扱いについてほとんど知識がなかったため、今後図書館と協力して即時オープンアクセス化について対応していく必要があると強く感じた。
- ・ 90分という短い時間に盛りだくさんな、そして濃い内容がテンポよく語られたセミナーだったと思います。現場としては「義務化実施に関する細かいこと」が気になるころではありますが、今回のセミナーで改めて「検討事項がまだまだ山積み」であることも認知できましたので、登壇者のご発言にもあったように、関係者間でフラットで、建設的な議論・検討がスピード感を持って進むことを期待しています。もちろん自分自身も、その責務の一環を担う覚悟です。

【大学職員（図書系）】

- ・ ディスカッション登壇者が中堅若手世代だったことが特によかった
- ・ 様々な立場の方からお話を伺うことができ、非常に参考になりました。
- ・ 本日のセミナーをお聞きして、オープンアクセス・オープンサイエンスについて疑問に感じていた点はやはり課題であったのがわかりました。2025年に向けて本学でもどのように取り組んでいけるのかの参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ・ Slidoに表示されていた質問に関して、可能な範囲で回答、共有していただけますとありがたく存じます。
- ・ もう少し質問を拾っていただいても良かったのではないのでしょうか
- ・ やはり具体的なところはほぼ詰まっていないのだなと感じたので、早期の情報提供を期待したい。
- ・ 現在の政策動向を知るよい機会となりました。ありがとうございました。
- ・ 今日のSlidoの質問事項の回答は、まったくきれいなということでしょうか。何らかの形で、今後に生かしていただきたいと強く希望します。
- ・ わかりやすく率直にお話していただき、みなさんが前向きにこの件について向き合っていることがわかり有意義でした。
- ・ Slidoの質問にご回答いただけますと幸いです。
- ・ 即時OAについて、不明瞭であった点や懸念点等について確認することができ、大変参考になりました。今後の動向や情報についてもぜひ引き続きご提供いただければと思います。本当にありがとうございました。
- ・ これから検討というものが多くもやもやが残ります。出版社との交渉は国が既に進めているかと思いきや、これまでと変わらず大学等の集団交渉ということで残念です。
- ・ 基本方針の文言にこめられた国（内閣府）の意図、思いを赤池さんから聞けたことがよかったです。実現に向けて対応する現場は大変、ということにも一定の理解を示していただけていることに少し安心しました。ですが、現場としては正直不安なことばかりで

す。できるだけ詳しい実務的な指針など（特例措置も含めて）を示していただきたいです。

- ・ OA化について、「色の話じゃない」「国民に成果を還元できればいい、色々なPASSがあつていい」というのは目から鱗で、スッキリしました。
- ・ これから決めて行くところが多いことなどが分かりました。
- ・ 機関リポジトリは大学の研究業績可視化のツール程度の認識なので、識別子のみの登録も大いに結構かと思います。また即時OAは従わなかった研究者にサンクションが発生するのか、着目しています。
- ・ 非常に参考になりましたが、一方で具体的な対応についてまだ見えない部分が多く、困惑しています。また、本件については全学的な取組みを必要とするため、関係省庁からも大学執行部へ通達いただけますと幸いです。
- ・ 質問内容についての回答をいただきましたかったです。細かいことかもしれませんが、今、現場が困っていることが多々書かれていました。疑問や不安が全然解消されていません。
- ・ 基本方針についての国としての考え方は理解できたが、実行までにはまだまだ検討事項は多いと感じた。スケジュール的に間に合うのかが依然として気になる。
- ・ OA推進の方針はよくわかりましたが、出版社との交渉に関する話題があまり触れられなかったのが心残りでした。交渉するにしても様々な論点があるでしょうから、購読料問題についても対処が必要だと思いました。
- ・ 今回のセミナーが図書館関係者を対象にしたという性格も関連しているのでしょうか。「研究者の負担」という側面について丁寧に論じるべきであると感じました。学術流通プラットフォームを対象にすることが政策目的であり、その整合性を保つという形で国内の学協会等学術コミュニティがその負担を課されるという流れであると受け取りましたが、研究者が中心に管理をしているのもであると、J-STAGEに定期的に刊行物を登録する余力を持たないものもあります。中小規模の学協会にも目を向けるべきなのでは、と感じます。

「査読付きの論文」という定義の場合、各大学の紀要にもその条件に合致するものがある可能性があります。雑誌として刊行、その論文を機関リポジトリ上に登録、オープンアクセス化する道のりは問題ないと思われませんが、輪番で紀要を管理している研究者に、その論文の根拠となる研究データまで管理させるというのは、聊か負担が重いのではないかと、平素紀要登録のため研究者とやりとりをする機関リポジトリ担当者の身では感じています。

勿論、当該方針を出すこと自体には大きな価値がありますし、全面的に賛同します。しかしながら、研究者への広報を丁寧に行い、混乱が生じないような措置を講ずることを強く求めます。

これによって中小規模の学協会がその運営に負担を感じ、その活動を萎縮させること

はだれにとっても不幸なことであると思いますので。

- ・ 現状として、NIIの研究データ基盤システムが安定的に動いているとは正直言い難い状況ですし、政策の根幹となるシステムが不安定では、研究者も信頼できないのではないかと思います。また研究データを国の資産として考えるのであれば、そのストレージはどう保証するのか？ということも考えなければならないと思います。一過性の予算措置ではなく、支援人材の育成も含めて、システムの基盤整備を戦略的・継続的に進めていかなければ、研究者が研究成果を「預けてくれない」ように感じています。多くの大学の機関リポジトリは、即時 OA に耐えられる状況ではないと思います (JAIRO Cloud の不安定な挙動、GakuninRDM と JAIRO Cloud の連携の遅れ、図書系職員の激減によるマンパワー不足等)。
- ・ 機関リポジトリのシステムは、もっと改良いただいて、各大学がかける時間がもっと時短できると有難いです。
また、外国 OJ や DB の大手出版社で、JUSTICE 提案は新規の機関のみしか認めないところとの契約では、契約期間が長い機関が損をし続けながら、相当な値上がり率で上昇していく契約の理不尽さをどうにかできないものかと悩んでおります。
- ・ 「即時」「オープンアクセス」「義務」それぞれの定義をはっきりして議論を進めていただければと思います。
- ・ 研究者、図書館員、URA、立場によって見えているものが違い、勉強になりました。
- ・ slido では現場からの率直な意見や質問が寄せられていました。質問には回答を、意見は活かしていただきたいです。
- ・ 有意義な機会となりました。文部科学省の補正予算については、今後の発表を待ちたいと思います。
- ・ 本日は、国のオープンアクセス方針について、しっかり説明いただきありがとうございました。理念について、目指すところについて非常によくわかりました。なお、本日の Slido への意見について、会場ではあまり触れられませんでした。いずれも実務には重要な内容だったと思うので、後日にでも回答をまとめて共有いただければありがたいです。
- ・ 図書館に異動して間もないので、現在抱える問題の理解に役立ちました。進行もスムーズだったので、聞きやすかったです。大学により規模が異なるので、オープンアクセスが関係する大学は限られるのではと思われました。
- ・ 貴重な機会をありがとうございました。赤池参事官のお話を直接うかがえる機会としても重要でしたが、いろいろな立場の方が参加されていることも重要な場だったと思います。
- ・ 図書館だけでなく大学全体で取り組む必要があることが可視化できて良かったと思います。
- ・ ナショナルライセンスに関する話も伺えて良かったです。どうしても短期的・現実的な

話に終始してしまいがちですが、中長期的な話もきちんと明確化して記録しておくことも大事なのではないかと感じました。

- ・ 現場の各担当者の不安や疑問を払拭する機会として、これからも継続して開催していただきたいです。個人的にはまだまだ理解が及ばないところが多々あるので、とても期待しています。
- ・ Slido に掲載された質問に可能な限り回答していただきたい
- ・ 小泉先生は「OA 化が重要であって、色は関係ない」と仰っていましたが、学術プラットフォームは営利企業なわけですから、利益の最大化を目指して購読料であれ APC であれ、上げられるところまで上げるのが合理的な（出資者に対して誠実な）行動となります。一時的には、転換契約やフル OA 化によって「購読料+APC」の総額が抑制されたとしても、営利企業に学術情報流通（特に論文の価値の評価）を委ねている限りは、いずれはコストは上がり続けるのではないかと考えます。結果にフォーカスして過程を重視しない、学術情報流通に対する研究コミュニティの主体性の欠如がこうした状況を招いたのではないのでしょうか。
- ・ 「国」が OA に取り組む姿勢がよくわかるお話でした。ありがとうございます。一方で、ディスカッションにありましたが、政策に実効性（実行性）を持たせるための手段・方法や指針の具体的な部分がもう少し明確だとよりありがたいです。大学・研究機関の規模により、国の政策に対する温度差は否めません。組織内でも、研究者・執行部・図書館・研究推進部門など、様々なステークホルダーがいて、違った視点を持っているため、だれがどう取りまとめるのか、事例共有を参考にできればと思います。
- ・ Slido にもありましたが、独自にリポジトリ運営管理をすることについて、限界のある機関も想像できますので、全国規模の National リポジトリの構築も検討もありうるのではないのでしょうか。
- ・ いつも開催をありがとうございます。交渉に関する内容は出版社のいる場では回答しにくい内容だと思いますので、出版社のいない場で第 2 弾があるともっと盛り上がるかと思いました。
- ・ 一連の問題における文科省の動き、考え方があまり見えません。
- ・ 医学図書館でレファレンスを担当していますが、最近は教員からの APC 関連の問い合わせ対応がほとんどを占めているといっても過言ではないくらいで、利用者対応の変容を強く感じています。そのような中で本日のセミナーに参加でき大変勉強になりました。引き続き今後の動きに注目していきたいです。ありがとうございます。
- ・ 質問に回答する時間を設けてほしい。また回答を後日公開していただきたい。
- ・ 今回の Slido や研究者の反応を見ていると国の OA 戦略は Gold なのか Green なのか、というところで混乱しているようです。私の理解としては OA になっていれば色は関係ないという認識です。「研究成果を OA にする」について具体的なご意見がもう少し聞きたかったです。

- ・ リポジトリ自体がうまく運営できていない大学なので、個人的には国から大号令がかかったことで大義名分ができ、ありがたい話だと思っています。本日はありがとうございました。
- ・ OA 方針の提示方法など、文書のみですとわからなかった読み解きをいただき、参考となりました。公募要領の決定版が出る前の要望受付など実現しましたらありがたいと思います。今回 700 名近い参加とのことでしたが、どのような層の参加がどのくらいあったか知りたく思います。
- ・ 時宜になかった良いテーマで大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 決まっていない、わからないという内容を正直にお伝えいただき、疑心暗鬼にならずに話を聞けたと思います。また、海外の事例紹介も大変参考になりました。
- ・ 図書館業務（リポジトリ登録含む）が委託され、少数の専任職員は管理業務に追われています。今後、図書館業務未経験の職員が配属されることも考えられるため、基本的な知識が得られる研修の機会などが必要だと感じます。（リポジトリを運営しているからと、情報を図書館に集中して渡されても、学内での共有すら難しいのが現状）
- ・ 実務については、先行事例に追随せざるを得ないと考えます。具体的な取り組みがわかりやすく提示されることを希望します。
- ・ 赤池氏の話は概念や内閣の方針に留まり、多くの参加者が気になるであろう具体的な事例や判断に触れていないことが、非常に残念であった。会中の挨拶で、野球に例える場面があったと思うが、赤池氏の話は四死球の連続でストライクが入らない投手であったと言わざるを得ない。
- ・ 次回以降、お話を頂ける場面があれば、より現場の仕事に踏み込んだ具体的な話を拝聴したいです。このままでは、内閣が方針を示したので、各大学の責任で内閣の方針を遵守しなさい、と言われてるように感じます。
- ・ Slido に現場からの声がたくさんあがっていましたが、あまり取り上げられることがなく残念でした。赤池参事官から直接お話をうかがうことのできる貴重な機会でありますし、会場が優先となるのも理解できますが、もう少しバランスがよいとオンライン参加者としてはありがたいと思います。
- ・ やはりテキストだけでは伝わらないものもあるかと思いますので、そもそもの意味をご説明くださり、大変参考になりました。またディスカッションも杓子定規な内容ではなく、かつみなさん前向きな議論で大変興味深く、かつ登壇者の方たちの前向きな姿勢にも元気づけられました。総じて大変よい会でした。登壇者、企画された関係のみなさま、どうもありがとうございました。
- ・ 期間を設けて Web 上で質問を受け付けてほしいです。特に現場の細かい内容は質疑応答ではなく、深掘りした内容をご教示頂くことを希望します。
- ・ 政策の方向性や、これから決まってくる事項が理解できました。有益な情報を提供くださりましてありがとうございました。

- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 今回の基本方針への対応については博士論文のインターネット公表のスキームが何かしら参考になるのではないかと考えている。オープンアクセス化の対象数が大幅に増加することもあり、引き続き、国には実現に向けて幅広く持続性のある施策の検討・実施をお願いしたい。
- ・ 小規模大学でどの程度実現できるか不透明ですが、大変参考になりました。
- ・ 大学図書館の現場の意見を代弁してくださっていることも有難いですし、皆様の切り込んでいくご発言によって、内容がより分かりやすくなりますし大変有難いです。とても参考になります。
- ・ 学内会議のためディスカッション拝聴出来ず、評価を低めにしました。今後も学術流通に関する連続セミナーに参加させていただきたいと思います。
- ・ 多くの方の関心事である即時 OA 方針の具体的な点については、2024 年度中に詰めていくということであまり情報が得られませんでした。赤池さんの講演から方針の根底にある国としての発想を垣間見ることができたのは有益でした（自分の理解では、いついつまでに OA にするという行為よりも、即時で（いつでも）OA にできるようにするコントロール権を取り戻すことを意識されてるように受け止めました）。また、尾城さんの、グリーンやゴールドという区別への疑問も良かったです。具体的に大学図書館等の現場組織でどう実装したらいいか、チャレンジングな課題ですが、考えてみたいと思いました。
- ・ 老婆心ながら、Slido は匿名での投稿を禁止したほうが良いのではないかと思います。取り上げられなかった大量の質問への後日回答公開を強く希望されることも多く、であれば、質問する方にも責任を持って（内容も文章表現も匿名で言いたいほうだいではなく）記載していただきたいです。（自分でイベントを開催するときは匿名禁止の設定にしています。）
- ・ 年度末のご多忙な時期に、企画・運営大変ありがとうございました。
- ・ 第 2 部のディスカッションでも話題になりましたが、公的資金による学術雑誌即時 OA 化の円滑な実施においては、教員の理解・協力が鍵になるかと思います。特にオープンデータについては何かと難しいところがありますので、文科省からの具体的なガイドライン等が示された段階で、改めてこのようなセミナーの開催をご検討いただければと存じます。
- ・ ゴールド OA と、リポジトリでの即時 OA の使い分けについて。今後、キャッチボールがあれば視聴希望します。
- ・ 少し先なので仕方がないと思いますが、もう少し具体的な内容が知りたかった。
- ・ 触れている方がいらっしゃいましたが、科研費等の公募内容で初めて、やるべきことの最終形態を知るといのは避けていただきたいので、その辺りのスケジュール等も知りたかったです。

- ・ 質問を募集するのであれば、もう少し回答する時間を確保いただくとよかったですのではないかと思います。

【その他：高専職員、代理店、記者など】

- ・ 即時 OA の義務化にあたり、大学図書館がこれから準備できること、すべきことが何なのか分かりかねています。参考事例等を教えて頂く機会があると助かります。
- ・ RUC として、国の方針、NII や JST など国の機関、学会、海外出版社などのどれとも与せず、中立的な立場で日本の研究者にとって本当に良い方向性を模索することはできないでしょうか。
- ・ オープンサイエンスが国を挙げた政策、そして国を挙げての競争になったいまこそ、内閣府・JST・NII・各研究機関で、相互に気軽に相談できる関係を作ってほしいと思います。
- ・ 最初のご講演によって、国内のオープンサイエンスに向けての行政側の考えや実現に向けてのロードマップがつかめました。また、ディスカッションの部分では、いろいろな立場の方々の苦悩や課題を率直にお聞きできて大変参考になりました。
- ・ 大学の中で図書館に押しつけられがちだった問題を、URA や学術推進と一体の問題として執行部が考えていかねばならないという小泉先生のお話は、今後の展開を追っていくうえで参考になる視点だと感じました。
- ・ 独立行政法人系の研究機関は大学（学位授与機関）でないために JUSTICE に加入させていただけでならず、JUSTICE が実施する大手プラットフォームとの交渉の結果の影響を受けるのかどうか気がかりです。国全体としての最適化の観点から、大学でない研究図書館に門戸を開いていただきたいと改めて思いました。
- ・ 高専に対する情報提供も大学同様をお願い申し上げます。
- ・ 本日はセミナーに参加させていただきありがとうございました。高専図書館の方にはなかなか情報が届いてこないことも多く、わかっていないことだらけなのですが、お話を聞いているだけでも大変参考になりました。またこういった機会がありましたら参加させていただきたいです。
- ・ 大きな方針は見えてきたが、具体的な事例に関してはこれからの検討が多く、具体的案が出てきたときには日程がなく機関リポジトリの運用者に負担が来るのではないかと危惧している
- ・ 次回も楽しみにしています。

○今後、セミナーで取り上げてほしいテーマ ※公開の同意をいただいたものです。

【同一のテーマ】

- ・ 引き続き情報提供していただきたい。
- ・ 即時 OA 実現に向けた各省協議の内容など、何かアップデートがあった際に、今回のよ

うな説明の場を設けていただけたらありがたいです。

- ・ この懇話会の第二弾を希望します。
- ・ 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた さらに具体的なお話。
- ・ JPCOAR、JUSTICE、RUC の合同セミナー第2弾（テーマは、今回と同じ）
- ・ 現場方の意見交換は、とても勉強になります。
- ・ 国の OA 方針について詳細なことはこれから検討していく、というお話でしたので、今後も国の OA 方針について動きがあれば随時取り上げていただきたいと思います。
- ・ 進展があったら同じテーマでお願いします。
- ・ 引き続き、OA、転換契約、研究データ公開についての最新の状況など、取り上げていただけるとありがたいです。
- ・ ひきつづきオープンアクセス義務化の話題をお願いします。詳細が決まっていない部分が多すぎてまだ現場で具体的な検討をするにはイメージしづらいため。
- ・ 「即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」決定事項とその解説
- ・ 今後の具体案が提示された段階で、政策の説明会を開催いただけるとありがたいです。
- ・ 即時 OA について例外事項など示されたら解説する。主要なリポジトリベンダーによるグリーン OA 実現に向けた研究者、大学、図書館、のワークフロー事例紹介。
- ・ 即時アクセス化について続報を引き続きとりあげていただきたい。
- ・ 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」については、継続的に情報共有の機会をいただければありがたいです。
- ・ 実効性を持たせるためのルールなどが決まってきましたら続報をお伺いしたいです。
- ・ 今回の学術論文等の即時オープンアクセスに関するテーマ。
- ・ 引き続き、オープンアクセス化について触れていただけると助かります。

【即時 OA の具体的対応】

- ・ 即時 OA の具体的対応状況。
- ・ 即時 OA に対してのポリシーなどの先行事例。
- ・ 国内学協会の OA への取組、即時 OA 方針への FA 側の考えを聞ける機会があると大変参考になります。
- ・ 海外でもいいでのオープンアクセスの取組の具体的な事例が知りたい。
- ・ 学術論文等の即時オープンアクセスの具体的な運用に関する懇話会。
- ・ JISC など、海外の成功事例を国内に取り入れる際の具体的な問題点について。
- ・ 学術論文等の即時オープンアクセスに関する実務やガイドライン。
- ・ 本政策に対しての各大学での取り組み事例を紹介してほしい。

【機関リポジトリ】

- ・ 機関リポジトリシステム (JAIRO Cloud (WEKO3) , WEKO3 以外の可能性) について

- ・ 機関リポジトリの各大学での活用方法（教職員に向けて定期的に発信していること等）、研究者の機関リポジトリへの認識（他の掲載媒体と比べてどのくらいの掲載認識でいるのか等）

【国の政策関連】

- ・ 研究データ関連や今回のような即時 OA など、国から対応を要請される分野については積極的にセミナーにて知見を共有してほしいと思います。
- ・ 文部科学省など国の政策の中で、図書や研究支援に係るものについて、都度、詳細を解説していただけるようなセミナーを開催していただけるとありがたいです。

【評価】

- ・ 研究者評価を変えることはできるのか。
- ・ オープンアクセスに伴う大学評価、研究者評価の動向が気になります。

【その他】

- ・ 国、大学（教員・研究職、URA、研究推進系職員、図書系職員）、出版社、助成機関等、各ステークホルダーを集めての OA・OS をめぐる対話が聞けたらと思います。（図書系、図書系と研究職、といった狭い枠組みだけでとらえるような問題ではないのですが、実務の中ではそうなりがちです）
- ・ 一般の若手・中堅の研究者からみたオープンアクセス義務化の影響について、率直な意見を伺う。
- ・ 大学のオープンアクセスポリシーの策定と、どのように実効性を持たせるかについて取り上げていただきたいです。
- ・ OA2020 の当初の目的を見直す。
- ・ APC による OA 化の問題点。
- ・ オープンアクセスに関連するものこのような各立場のご意見や現在の状況を知ることができる会は有難いです。
- ・ CRIS（オープンアクセスにおいて果たす役割など）。
- ・ 即時 OA の具体的な展開があった時点でのセミナー。
- ・ 研究データ管理体制、図書館等公衆送信サービス。
- ・ 洋雑誌の契約も、機関リポジトリも担当しておりますので、どちらの喫緊の課題も、我が事として、また参加させていただきたいです。
- ・ 権利保持戦略について。
- ・ 図書館への影響を具体的に知りたい。
- ・ 研究データ管理。
- ・ 研究 DX について特に学術情報流通の DX により期待されるインパクトの事例など。

- ・ 日本の電子ジャーナルサイトの評価。
- ・ 著作権法 31 条改正関係についても、続報をお願いしたいと思います。

写真



左から、茂出木氏、赤池氏、尾城氏、田口氏、久保氏

